的に形成せられたるものである、そしてその大乘教も全然新元素から成たものではなく、その淵源は遠く佛陀金口の直說に發し、諸學派の影響を受け、展轉發達したもので、決して晴天の霹靂ではないとし、大乘思想發展の徑路を佛典によりて論明し、最後に諸法實相論、阿賴耶識緣起論、眞如緣起論に就て簡明に論述せられ、前述の如く第三期は之を說かずして本書は結ばれてある。

著者は我國有數の梵文學者である、その造詣深い梵文學の知識を緯とし、著者の佛教史及び教理に對する見識を經とし、あらゆる難問題も其知識、見識から批評的に想像し解說せられ、甲乙思想の關係連絡などに就ても巧みなる推論が加へられてあるから、印度佛教史上の難問題に對する解釋の一方法として著者の說を認めることが出來ると思ふ。本書は「佛教大觀」の第二編として出版せられたのであるが、元は「佛教講義錄」に載せられたものであつて、「通俗を目的」とせられたのではあるが、茲に所謂「通俗」とは著者の謙遜からか、然らずは發行者の要求から、形式的に言ひ表はされた「通俗」であるといふことが歴然として認めらるゝ位、專門的、研究的であることを感じた、印度佛教研究者に對し一參考書として推擧するに躊躇しないのである。唯「初には稍精しくして後に麤なるは」著者と共に遺憾に思ふと同樣に、他日自由に著者の蘊蓄を披攄せられん機を期せざるを得ぬのである。東京小石川原町六、丙午出版社發行、菊版二〇六頁、定價壹圓（本田義英）

感情の修養

文學博士　谷本　富著

本書は、著者の自序にもあるやうに、その大部分は、去る大正五年十月より翌年三月に亘りて、神戸高等商業學校に於て講ぜられたるものをば、此度訂正增補して出版せられたるものである。著者によれば、現時一般の教育は、動もすれば智的に偏して、情意の方面をば閑却して居る。同じく感覺の教育をば高調するにしても、その辨識的方面を重んじて、快不快の感的方面をば輕視するが、これは誤つて居る。否な世人は兎角理論理論といふが、理論の中にても實際は情緒による理論の方が遙かに多い。眞に人事の活機となつて、世を動かすものは、此の情緒による理論であつて決して單に冷やかなる智的推斷の能くする處ではない、況んや情緒は洵に人生の華であつて、これなくんばわれ等の生活は實に荒涼索莫たるものであらう。それ故に吾人はかの智的修養と共に、よく苦樂の感受性をば錬磨して、一面享樂と共に又辛酸苦楚を嘗めて、これをば充分堪え得る力を養ひ、これと共に又よく他人の不幸に同情し、更に進んでは、種々なる情緒、情操をば培養し、發展して、趣味あり意義ある生活をば爲すようにしなければならぬ。而してこれやがて本書出版の動機であり、又本書の主張の歸結である。

本書章を分つこと十三、先づ第一章に於て、東西兩洋に於ける教育思想の歴史的趨勢を概觀して、感情修養の必要を論じ、第二章に於ては、感情の一般的特質を述べて博士の所謂、樂悲勇怯喜怒愛悪欲の九情說をば豫說し、第三章に於ては、現代人の通弊と

して神經過勞と分析過重といふことをば種々なる統計によりて論じてこれが匡正法をば說き、第四章及第五章は、感情の基礎的修養論で、かの前述の九情說に基づきて、これに對する內外兩方面よりの修養法をば詳細に論究せられて居る。第六章は獨立自尊、第七章は競爭と友情、第八章は同情と憐憫、第九章は愛國心と偉人崇拜、而して第十章より第十三章に至る最後の四章は、眞善美の情操、宗敎的情操の論であつて、こは前の第四、第五章と共に本書の眼目となつて居るものである。即ちこれに於ては先づ眞善美そのものゝ本質及びその相互の關係を論じて、これにプラグマティズム的の基礎を與へ、次に眞善美の情操の特質及それの修養法をば種々實際的生活の上より精細に論述せられて居る。次に宗敎的情操の論に於ては、先づ我國及西洋に於ける宗敎と敎育との分離の經路を述べ、次に宗敎そのものゝ本質及それの種類を論じて、佛耶兩敎の特質を比較し、なほ進んで心靈の本性、自力敎と他力敎、救主と宇宙の大靈、この大靈と吾人の小靈との關係、宗敎的情操の極致としての妙卽卽の感、最後に宗敎の意的方面を高調して、宗敎の眞義は突破なり、と斷じて、著者の所謂積極的宗敎としての極樂模倣說に言及して卷を結ばれて居る。

以上は本書の一般の趣旨とその內容の大體とであるが、然しこの趣旨がこの內容によりて充分全うせられるや否やといふことは、本書の如き性質の書にありては、全くこを讀む人々の實踐的感銘の如何といふことによりて定ることゝ思ふから、こゝにはこれ等のことは觸れずして、唯だ有益なる修養書として、これが紹介に止めて置くことゝする。目黑書店發行、定價壹圓貳拾錢、（世良壽男）

寄贈書籍雜誌

人間の進化　理學博士　石川千代松著　大日本學術協會
道德の根本義　文學士　吉田　靜致著　同
無門關解釋　文學士　紀平　正美著　岩波書店

哲學雜誌、思潮、心理研究、六合雜誌、東洋哲學、無盡燈、東亞之光、早稻田文學、學校敎育、敎育、內外敎育評論、敎育研究、敎育界、新公論、敎育時論、東京敎育、奈良縣敎育、靜岡縣敎育時報、滋賀縣敎育雜誌、岐阜縣敎育、愛知敎育雜誌、佐賀縣敎育、蘇備敎育、宮敎敎育、愛媛敎育、